

報道関係者 各位

2009年6月5日 日本科学未来館

皆既日食関連イベント

世界天文年 2009 公認イベント 2009年7月8日(水)～31日(金)

にっぽんか がくみらいかん

日本科学未来館(略称:未来館、館長:毛利 衛、所在地:東京都江東区青海)は、2009年7月22日(水)の皆既日食に合わせ、日食と太陽に関する展示やイベントを、世界天文年 2009 の公認イベントとして開催します。

今年7月22日には、1963年以来、実に46年ぶりに日本各所で皆既日食が観察できます。今回、皆既日食が日本で観察できるのは、奄美大島北部、トカラ列島、屋久島、種子島南部など。その他の地域では、部分日食を見ることができます。未来館では、この皆既日食に合わせ、7月を「太陽月間」とし、日食と太陽に関するトークイベントや特別展示などを行います。期間限定の特別展示では、皆既日食について、神話で天変地異として描かれていた時代から、宇宙空間から観測できるようになった今日までを、古いスケッチや写真、日本の太陽観測衛星「ひので」によって撮影された最新の映像などを用いて、さまざまな太陽の姿とともに紹介します。サイエンスミニトークでは、太陽活動の変動に起因する過去の気候変動や、太陽フレアなどの爆発現象が今の地球に与える現象など、太陽が地球環境に及ぼす影響を、科学コミュニケーターがわかりやすく解説します。

日食当日には、日食観測用の眼鏡やピンホールカメラを用いて、未来館屋外で部分日食を観測するイベントを開催。その後、国立天文台の硫黄島観測隊が撮影するハイビジョン映像を、超高速インターネット衛星「きずな」を通して、館内の特設スクリーンで生中継。科学コミュニケーターの解説とともに、約6分間の皆既日食を観察します。

半世紀ぶりに日本で観測される皆既日食。次回、日本で観測できるのは2035年。先端の研究によって得られた、さまざまな太陽の姿をとおして、皆既日食をより深く理解し、楽しめるイベントです。

■ 概要 ■

- 開催期間** 2009年7月8日(水)～31日(金)
- 場 所** 日本科学未来館 5階 常設展示「地球環境とフロンティア」ほか (住所:東京都江東区青海2-41)
- 開館時間** 午前10時～午後5時(入館は閉館時間30分前まで)
- 休 館 日** 毎週火曜日(ただし、祝日、春・夏・冬休み期間は開館)、年末年始(12/28～1/1)
- 入 館 料** 大人 600円、18歳以下 200円 / 団体(8名以上) 大人 480円、18歳以下 160円
※上記料金は2009年4月1日以降の料金
※障害者手帳所持者は当人および付き添い者1名まで無料 ※特別展は別料金の場合があります
- 監 修** 常田佐久(国立天文台 ひので科学プロジェクト室長・教授)

一般からのお問い合わせ先	このリリースに関するお問い合わせ先
日本科学未来館 TEL:03-3570-9151 FAX:03-3570-9150 URL:http://www.miraikan.jst.go.jp	日本科学未来館 広報室 広報グループ (press@miraikan.jst.go.jp) 〒135-0064 東京都江東区青海2-41 TEL:03-3570-9192 FAX:03-3570-9150

1. 特別展示「太陽の素顔にせまる」

神話で語られていた時代から、宇宙空間より観測されるようになった現在まで、「日食」にまつわる古いスケッチや資料、写真、日本の太陽観測衛星「ひので」によって撮影された最新の映像などを用いて、さまざまな太陽の姿を紹介します。

- 展示期間 2009年7月8日(水)～31日(金)
- 開催場所 5階 常設展示「地球環境とフロンティア」内

2. サイエンスミニトーク「太陽がつくる地球環境」

氷期-間氷期のサイクルは、太陽からの日射量の変化によって生み出されると言われています。太陽の活動の変動に起因する、過去の気候変動を紹介するとともに、太陽フレアなどの爆発現象が今の地球環境に与える影響など、太陽と地球環境の関係を紹介します。

- 展示期間 2009年7月8日(水)～31日(金)
- 開催時間 15:30～15:45
- 開催場所 5階 常設展示「地球環境とフロンティア」内

3. 日食ライブイベント

夏休み期間中、1階 企画展示ゾーンで開催の「地球と宇宙の環境科学展 消えた生き物の謎と秘密」(※)と連動し、部分日食が観測できる東京と、皆既日食が見られる硫黄島、双方の日食を観察します。

(東京:食の始め 9:55、最大 11:13、食の終り 12:30 硫黄島:食の始め 10:00、最大 11:24、終り 12:53)

- 開催日 2009年7月22日(水) ■ 共催 日経BP社

みんなで部分日食をみよう!

日食眼鏡やピンホールカメラを使用し、屋外で科学コミュニケーターの指導のもと部分日食(最大75%)を観測します。

- 開催時間 10:15～12:15 (雨天中止)
- 開催場所 1階 ロッテリア店舗前

皆既日食ライブ中継

国立天文台 硫黄島観測隊の撮影するハイビジョン映像を、超高速インターネット衛星「きずな」を通して未来館で中継。科学コミュニケーターの解説により、約6分間の世紀の天体ショーをお楽しみいただけます。

- 開催時間 11:00～11:40
- 開催場所 1階 400インチ前

※現地の気象状況などによりご覧いただけない場合があります

※「地球と宇宙の環境科学展 消えた生き物の謎と秘密」 開催期間: 2009年7月18日(土)～8月31日(月)

太古から絶滅を繰り返してきた生き物の歴史と、その原因となる環境変化について知り、低炭素社会の実現など、環境対策を学ぶイベントです (<http://kieta-ikimono.com>)

主催 : 日経BP社、日経ナショナル ジオグラフィック社

4. 展示の前で研究者に会おう! 「“宇宙天気”を予報する」

地球上から穏やかに見える太陽は、宇宙空間では違った表情を見せます。地球磁気圏外では、太陽から出る粒子の風が吹きすさぶ過酷な環境です。太陽の表面では常にさまざまな爆発が起きており、爆発による物質の塊が地球にまで飛んでくることもあります。このような厳しい宇宙環境により、GPSや気象衛星をはじめとする人工衛星が障害をうけるといふ事例が発生しています。今後、宇宙利用がますます広がる中で、太陽活動に端を発する宇宙環境の変動を予測する「宇宙天気予報」の研究が進められており、その第一線で活躍する研究者に話を伺います。

- 開催日 2009年7月25日(土)
- 開催時間 15:00～16:00
- 開催場所 5階 常設展示「地球環境とフロンティア」内
- 講師 亘慎一((独)情報通信研究機構 電磁波計測研究センター 宇宙環境計測グループ 研究マネージャー)